

講義科目名称：保育者論

授業コード：

英文科目名称：Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
糸洲 理子			

授業のテーマ及び到達目標	現代社会における教職や保育職の意義、教員の役割、資質能力、職務内容等について学ぶ。特に、乳幼児期の教育・保育に関わる幼稚園教諭や保育士、保育教諭になるために、幼稚園教諭・保育士、保育教諭の役割と倫理、制度的位置づけ、職務内容等について学び、保育者の専門性について考察し、理解することができる。		
授業計画	第1回	講義概要説明。「幼稚園教諭・保育士になる」ということ 授業始めに講義概要を説明する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。	
	第2回	保育所保育士の仕事と役割 保育所保育士の仕事と役割について理解する。	
	第3回	幼稚園教諭の仕事と役割 幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。	
	第4回	保育教諭の仕事と役割 保育教諭の仕事と役割について理解する。	
	第5回	教育・保育に必要な子ども理解 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。	
	第6回	幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。	
	第7回	職場で学び合う専門家 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。	
	第8回	特別支援教育・保育 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。	
	第9回	子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割 子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。	
	第10回	現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。	
	第11回	幼稚園教諭・保育士の職務：服務、研修、身分保障 幼稚園教諭や保育士の服務や研修、身分保障について学び、その職務を理解する。	
	第12回	幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。	
	第13回	幼稚園教諭・保育士の権利 幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。	
	第14回	専門職間及び関係機関との連携 園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。	
	第15回	幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース 幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。	
	第16回	定期試験	
授業の概要	幼稚園教諭・保育士、保育教諭の役割や倫理、制度的位置づけ、職務内容（研修、服務、身分保障等）について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解する。		
予習	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない用語は調べておくこと。 各回、約2時間の事前学習を要する。		
復習	授業で学んだ箇所の要点を整理し、説明できるようにすること。 各回、約2時間の事後学習を要する。		
テキスト	編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 2016 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第3版』 みらい 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館		
参考書	ミネルヴァ書房編集部 [編] 2018年 『保育小六法2018 [平成30年版]』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。		

評価方法・評価基準	<p>試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。</p> <p>【DP 1~4との関連】..</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。提出物の期限は厳守すること。
オフィスアワー	西研3-8 系洲研究室 毎週木曜日 3限目
課題に対するフィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
仲松あかり・奥原友紀乃			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽表現の基礎技術を修得し、保育現場で活用できる音楽の教材研究等に意欲を持って取り組めるようにする。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽表現の基礎技術が修得できる。</li> <li>保育現場で活用できる音楽の教材研究を通して基礎的な知識・技術が獲得できる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 講義説明概要及び『表現』領域について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーション</li> <li>「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園・保育要領」における表現領域について学ぶ。</li> <li>イントロダクションにボイス・アンサンブルを学ぶ。</li> </ul> <p>第2回 リトミック音楽教育の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダルクロワ教育法について：リトミックの発祥地であるスイスのリトミック音楽教育の現状をDVDの学習を通して、リトミックの原点を学ぶ（ICTの活用）</li> <li>DVD学習の感想を次回授業に提出する。</li> <li>沖縄県の幼児教育におけるリトミックの現状について学ぶ。</li> </ul> <p>第3回 拍の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎リズムのリズム打ちとステップ（歩く、ゆっくり歩く、走る、スキップ）を獲得する。</li> <li>ボディー・パーカッションを学ぶ。①</li> <li>手遊び・歌遊びについて学ぶ。①</li> </ul> <p>第4回 リズムパターンとフレージング</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムパターンとフレージングについて幼児曲を活用して学ぶ。</li> <li>ボディー・パーカッションの獲得。②</li> <li>手遊び・歌遊びについて学ぶ②</li> </ul> <p>第5回 リズムパターンとポリリズム。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>リズムパターンとポリリズムについて学ぶ。（小テスト）</li> <li>ボディー・パーカッションの獲得。③</li> <li>手遊び・歌遊びについて学ぶ。③</li> </ul> <p>第6回 幼児曲を題材にした音楽的な身体即興表現（教材研究①）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼児曲（はみがきのうた）を題材にして各グループで音楽的身体表現を創意工夫して発表する。</li> <li>各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> </ul> <p>第7回 イメージによる音楽的身体即興表現（教材研究②）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「熊蜂の飛行」（リムスキーコルサコフ作曲）を題材（CD鑑賞）に、音楽の強弱やテンポや楽曲の展開などについて考え、各グループで創意工夫し発表する。（ICTの活用）</li> <li>各グループのパフォーマンスを相互に評価し合い、ディスカッションする。</li> </ul> <p>第8回 拍子感とアナクルーシス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽的な拍子感（4拍子・3拍子・2拍子）について、身体で理解し獲得する。</li> <li>アナクルーシスについて、音楽でいかに重要か、身体を通して理解し獲得する。</li> </ul> <p>第9回 3拍子の獲得（教材研究③）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡易楽器やテニスボールを使って、3拍子を身体で理解し獲得する。</li> <li>「ぞうさん」、「エーデルワイス」、「かわいいオーガスチン」など既成曲を歌唱しながら、3拍子を身体で理解し獲得する。</li> </ul> <p>第10回 3拍子とカノン（教材研究④）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3拍子「うみ」を題材に、アナクルーシスを生かしながら4人グループで音楽的に身体創作する。</li> <li>「うみ」を題材に、一小節遅れのカノンを学ぶ。（中間テスト）</li> </ul> <p>第11回 テーマを生かした音楽的創作表現（教材研究⑤）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各グループでテーマを設定し、音楽的な身体創作を創意工夫し発表する。</li> </ul> <p>第12回 合奏（教材研究⑥）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合奏の題材を各グループで選択し、練習を踏まえて発表する。</li> </ul> <p>第13回 指導案作成①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究①～⑥の題材から選択し、各グループで保育の導入と保育設定を立案する。（学生によるICT活用を含む）</li> </ul> <p>第14回 指導案作成②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究①～⑥の題材から選択し、各グループで保育の導入と保育設定を立案する。</li> </ul> <p>第15回 模擬授業・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育場面を想定した指導案をもとに各グループで模擬授業を行う。</li> <li>各グループで行った模擬授業を、相互に評価し合いディスカッションする。</li> <li>授業のまとめ</li> </ul>
授業の概要	<p>身体を通して音楽を感じ、考え、表現するE・J＝ダルクロワの「リトミック教育法」に基づいて、音楽表現に必要な技術とその方法論を学ぶ。また、保育現場で活用できる手遊び、歌遊び、音楽的な身体創作表現など、具体的な教材活動を通して、音楽を発展的、総合的に創意工夫できるようにする。</p>

予習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材研究の課題を練習し発表する。</li> <li>・音楽的な身体創作発表をグループで事前に練習し発表に備える。</li> <li>・合奏の発表を各グループで事前に練習し発表に備える。</li> </ul>
復習	リズム・フレーズ、ポリリズムなどメトリカルなりズム課題をおさらいし獲得する。
テキスト	<p>①コピー資料。授業中に適宜配布する</p> <p>②井口太代表編著 2014年『新・幼児の音楽教育—幼児教育・保育士養成のための音楽的表現の指導—』朝日出版社</p>
参考書	<p>文部科学省 2017年 「幼稚園教育要領」 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 「幼稚園教育要領解説」 フレーベル館</p> <p>内閣府 2017年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 「保育所保育指針」 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 「保育所保育指針解説」 フレーベル館</p>
評価方法・評価基準	<p>実技テスト及び授業における課題評価</p> <p>① グループ課題による評価—幼児曲を音楽的な身体創作表現及び、基礎リズムや拍子感を生かした教材研究</p> <p>② 個人課題による評価—リズム唱、リズム打ち、リズムステップ、ポリリズム、カノンの実技及びレポート課題</p> <p>③ 発表への参加度—授業においてグループ発表による評価が数回ある</p> <p>④ 受講態度—①④を総合的に評価する。</p> <p>音楽的な創作発表30% 受講態度10% 小テスト・中間試験20% レポート課題15% 指導案作成10% 模擬授業15%</p> <p><b>【DP 1~4との関連】</b></p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	軽装、室内シューズで受講すること。
オフィスアワー	<p>仲松：毎週金曜日 4限目 仲松研究室</p> <p>奥原：授業終了後に質問を受け付けます。</p>
課題に対するフィードバック方法	課題については、採点后返却する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
佐久本 邦華			

授業のテーマ及び到達目標	保育内容の各領域を総合的に捉え、幼児の造形活動における発達段階を学び、子どもの発育と造形活動との関わりを理解することができる。また、ものの色や形や質感に加え、音や匂いなどの五感を取り入れた表現活動を通して表現の面白さを確認し、表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付け、保育内容の展開や指導法を学ぶ。		
授業計画	第1回	講義概要説明、領域「表現」のねらい及び内容について 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、映像や画像などを用いて乳幼児の活動する姿から「表現」を見出し、領域「表現」のねらい及び内容と関連付けることを通し、「表現」を理解する。	
	第2回	幼児の表現活動の背景について考え、活動が広がる指導方法について考える。 どのような出来事や人とのかかわりが子どもの心を動かすのか。環境が幼児の表現にどのように関わるものなのかを理解する機会を設ける。幼児の描く線や形など、表現を学生が追体験することで、その表現の特徴や面白さに気づくとともに、新しい展開や応用を考える。	
	第3回	国内外の保育研究で提唱されている実践・方法論を通して、造形表現活動の環境について考える。 レジャエミリアやPlayful Learningをはじめとする海外の幼児造形の動向を映像や画像を用いて解説し、造形表現活動における物的環境、人的環境について考える。	
	第4回	インクルーシブ保育における表現活動の可能性について学び、保育構想について考える。 2006年12月に、国連総会において採択された「障害者の権利に関する条約」を基に、インクルーシブ教育についての概要を説明する。また、沖縄の障がい児・者による美術作品展を紹介し、インクルーシブ保育における表現活動の可能性について考える。	
	第5回	触覚的アプローチを用いた表現活動を実践し、その特徴や面白さ、留意点について考える。(教材研究) 学生が様々な表現活動を経験することを中心とする。小麦粉絵の具を作り、手や足で直接絵の具の感触を楽しみながら、ビニールや画用紙など、違う支持体へ描くことを経験することを通して、触覚的アプローチの特徴や面白さや留意点について理解する。	
	第6回	偶然性を生かした様々な表現技法について学び、イメージを刺激するような展開方法を学ぶ。(教材研究) 学生が様々な表現活動を経験することを中心とする。絵の具流しやドリップング、デカルコマニーなど、偶然性を生かした表現を経験し、偶然性から生まれた色と形が子どもたちの想像力をどのように刺激するのかを考える。また、幼児の表現を受け止め共感し、声掛けなどのかかわり方によって表現が変化することを学ぶ。	
	第7回	自然環境を取り入れた表現活動について実践し、留意点について考える。(教材研究) 自然(風・光・影など)や自然物(葉、木の実など)を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や活動の面白さ、留意点などを考える。沖縄の植物について学生自身の知識も深め、身の回りの自然がどのような色、形、そして匂いがあるのか五感を通して感じ、表現を楽しむことを学ぶ。	
	第8回	五感を取り入れた表現活動を実践し、活動の面白さや留意点について考える。(教材研究) 音を聴いたり、匂いを嗅いだもの、時には味わったものを色と形で表現する。また逆に、色と形で表現されたものを音や身体で表現する活動を通して、表現することの楽しさ、面白さを知り、指導の留意点について考える。	
	第9回	廃材や身近な素材を用いた造形活動を実践し、教材研究を行う。(教材研究) 身近な素材(紙コップ・ペットボトルなど)を用いた幼児の総合的な表現活動を実践し、素材の特徴や、活動の面白さ、留意点などを考える。また、幼児の製作意欲を刺激するために集まった素材をどう環境に配置していくのか、どういった声掛けが必要なのかを学生に考えてもらい提案の機会を与える。	
	第10回	年齢による発達を踏まえて、環境構成について考える。 年齢による発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。表現は幼児の遊びや生活の中に見られること、表現は生活を豊かにすること、そのためには出会う人、もの、事柄に心動かされるような感性を保育者自身が身に付け、年齢に応じた環境を構成できることの大切さを確認する。	
	第11回	表現における情報機器及び教材の活用法について事例を通して学び、アイデアを考える。(情報機器の活用) 幼児の表現活動を幼児の間で共有し認め合うための方法の一つとして、画像や映像等を提示することを学ぶ。また、保育者や保護者にとっての幼児の表現活動を視覚化することの意味や効果についても学ぶ。授業では学生同士が、作品を製作する過程を記録し合い、お互いに鑑賞・評価することをとおして視覚化することの意味を経験を基に学ぶ。	
	第12回	総合的な表現活動を実践するために、グループで指導案を作成する。(指導案作成) グループを編成し、各グループにおいて幼児の実態に応じ、既存の表現活動を基に指導案の作成、教材研究を行う。	
	第13回	各グループにおいて作成した指導案に沿って教材研究を深める。(教材研究) 各グループの指導案を発表し、意見交換を行う。幼児に身に付けてほしい事柄や経験から教材研究を再考し、既存の表現活動から応用・発展できるような指導案を再作成する。	
	第14回	各グループで指導案を実践し、その振り返りを通して改善を試みる。(模擬授業) 第12回～第13回で作成した指導案を踏まえ、幼児の表現する様子を予想し、保育の場における表	

	<p>第15回</p> <p>現活動を中心とした模擬保育を行う。幼児の表現がさらに育まれるための活動のねらいや設定、教材や道具、教材研究の適切さ、言葉がけなど振り返り、意見交換を行い、学びを深める。総合的な表現活動の実践を通し、保育における造形教育について考える。</p> <p>これまで学んできた幼児の造形表現活動を振り返り、幼児が心を動かされ、「表現」することを通して「健康な心と体」が育まれていくことについて再考する。製作だけではなく道具や材料の譲り合い、後片付けを通して「道徳心」も芽生える。人と関わり、自然と関わることを通して他者への理解力も培われる。保育における造形教育、そして表現について考える。</p>
授業の概要	<p>はじめに領域「表現」のねらい、および内容の取り扱いについて学び、幼児の表現が人を含む環境との関わり合いの中で変化することを知る。また国内外の保育研究で提唱されている実践・方法論などを通して課題を知り、造形表現活動の環境について考える。中盤では幼児の造形活動における発達段階を学びながら、ボディペインティングやフロッタージュなどの教材体験を行い、子どもたちの感性を刺激するような教材の取り入れ方、そして発展のしかたについて学ぶ。さらに音や匂いなど五感を取り入れた造形表現や、自然環境を取り入れた表現活動を試みる。終盤では指導案の立案について学び、模擬授業を実践し、振り返りを行い、改善を行うことを通して、幼児教育における造形教育について考え、学んでいく内容となる。</p>
予習	レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。
復習	授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p>
参考書	<p>内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>久富陽子編『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』（萌文書林, 2016）、福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアートプロジェクトアプローチの実践からー』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）</p>
評価方法・評価基準	<p>全授業を通して、学習内容の様子や気づきをポートフォリオにまとめ、学生自身の学びが可視化されたものを中心に学びの過程を評価する（70%）、そのうえで最終レポートで学びの成果を評価する（30%）。</p> <p>【DP 1~4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</li> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します。
オフィスアワー	毎週火曜日・木曜日の2限目 佐久本研究室
課題に対するフィードバック方法	ポートフォリオを回収・採点し、試験期間を利用して学生へ返却する。

講義科目名称：保育カウンセリング

授業コード：

英文科目名称：Counseling for Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	1. 保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、カウンセリングの基礎的知識を獲得する。 2. 子ども理解・保護者理解に基づく支援方法を考えることができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、保育カウンセリング（保育相談支援）の意義 保育カウンセリング（保育相談支援）を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2回 カウンセリングに関する理論 カウンセリング理論（ロジャーズ理論、育てるカウンセリング論）、精神分析（心理社会的発達理論）、行動理論を学ぶ。</p> <p>第3回 子ども理解と発達理論 子どもを理解するための発達理論を学ぶ。</p> <p>第4回 子ども理解の方法 観察と記録の方法、個と集団をとらえる視点を学ぶ。</p> <p>第5回 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解） ロールプレイングを通して、受容・傾聴・共感的理解の重要性を学ぶ。</p> <p>第6回 カウンセリングの実践（アセスメント・対応・記録・職員間連携など） ケースに対するアセスメント・対応・記録・職員間連携について学ぶ。</p> <p>第7回 事例検討（離乳食・排泄） 事例を通して、離乳食の遅れ、排泄の自立についての支援方法を学ぶ。</p> <p>第8回 事例検討（アレルギー・歩行） 事例を通して、アレルギー児、歩行の遅い子への支援方法を学ぶ。</p> <p>第9回 事例検討（発達の遅れ・発達障がい） 事例を通して、ことばの遅れ・発達障がいのある子への支援方法を学ぶ。</p> <p>第10回 事例検討（問題行動・不登園） 事例を通して、子どもの問題行動・不登園への支援方法を学ぶ。</p> <p>第11回 事例検討（いじめ） 事例を通して、いじめへの対応を学ぶ。</p> <p>第12回 事例検討（虐待） 事例を通して、虐待への対応を学ぶ。</p> <p>第13回 事例検討（乳児院） 乳児院での事例について学ぶ。</p> <p>第14回 関係機関等との連携 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携を学ぶ。</p> <p>第15回 支援になる連絡帳の書き方 保護者支援になる連絡帳の書き方を学ぶ。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	保育カウンセリング（保育相談支援）の意義を理解し、カウンセリングの基本や子ども理解の方法について学ぶ。 事例検討（グループ討議）を通して子ども・保護者支援の実際について学ぶ。
予習	事例を事前に読み、支援方法を考える。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	講義内容、事例を振り返り、応用できるように努める。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	大野精一（編） 2017年 『教師・保育者のための教育相談』 萌文書林、青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年 『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林、小林育子 2017年 『演習 保育相談支援』 萌文書林から、講師作成資料を配布。その他、担当者が準備します。
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	定期試験40%、授業内レポート（毎時間提出）15%、グループ討議30%、発表5%、受講態度10%  【DP 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための

	<p>知識と技能を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</li> <li>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</li> <li>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</li> </ul>
履修上の注意	グループ討議を積極的に行うこと。
オフィスアワー	毎週月曜日 3限目 研究室
課題に対するフィードバック方法	授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。

講義科目名称：教育実習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	5単位	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることができる。
授業計画	<p>事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習の意義と目的および実習を臨むに於ける必要な事務手続きと留意事項</li> <li>・幼稚園教育の目的・目標と子どもの一日の生活、教師の役割</li> <li>・実習の内容と方法の理解、および保育内容の理解と事前計画と教材等の準備</li> <li>・一斉保育の保育方法の検討と指導案作成</li> <li>・支援を要する幼児の指導</li> <li>・教育実習先でのオリエンテーションおよび沿革・教育方針・運営等についての理解（事前訪問）</li> <li>・幼稚園教育実習先への観察学習（5月16日（水）～5月18日（金））いずれかの日に実習園と調整をして行うこと。</li> <li>また、支援を要する幼児の有無を確認し、指導の留意点等を把握し、実習までの事前学習</li> </ul> <p>教育実習の段階</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①観察実習</li> <li>②参加/部分実習</li> <li>③部分/責任実習</li> <li>④預かり保育/他</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌</li> <li>・指導案</li> <li>・教育実習中間協議会</li> <li>・教員による巡回指導と実習園での反省会</li> </ul> <p>事後指導</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習反省会</li> <li>・個別面談（教育実習の振り返りと自己の課題）</li> <li>・実習レポート</li> </ul>
授業の概要	教育内容を把握し教材研究を重ね、一斉保育の部分指導案を検討する。一斉保育の部分案作成し、模擬保育を行う。
予習	与えられた課題を準備し出席する。実習期間（9月）を考慮し、教材研究（教育内容および実習内容・他）を課す。実習先の方針や目標、指導計画などを勘案し教材研究および一斉指導の指導案を作成すること。
復習	学習した知識・技術の要点を整理し、実習の場で活用できるようにする。
テキスト	文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 その他必要な資料は担当者が準備する。
参考書	特になし
評価方法・評価基準	実習園からの評価資料（40%）、実習日誌（40%）実習レポート（20%）等で総合的に評価する。  【DP 1～4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに伝え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	心身ともに健康であること。学習態度や出席状況が良好であること。提出物は、期限内に提出していること。実習指導を履修している者。免許取得の関連において後期の開設科目に「保育・教職実践演習」があります。その科目は、自己の課題を認識し教師として最小限必要な資質能力を形成する目的をもった科目です。そのため、幼稚園教育実習後、自己の課題を認識できるようにしておくこと。また、その開設科目に支障がないように幼稚園教育実習を終えておくこと。
オフィスアワー	毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は、提出を求め評価後に、授業内で返却します。

講義科目名称：保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称：Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺優子・照屋建太・大城りえ・糸洲理子			

授業のテーマ及び到達目標	自己の課題を認識し、必要な知識や技能を身につけることができる。 保育者として求められる最小限必要な資質能力を形成することができる。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、到達目標とこれまでの学修の振り返り 自己の課題の明確化 保育者としての①使命感、責任感、教育的愛情②社会性や対人関係能力について、グループで検討し各自でまとめる。 これまでの学修（履修カルテ参照）や幼稚園教育実習を振り返り、知識、技能等の課題を明確化する。</p> <p>第2回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情 保育者としての使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の責務を果たそうとする姿勢について学ぶ。</p> <p>第3回 教材・教具等を工夫した指導案作成 教材や教具の特性を理解し、指導案作成を行う。</p> <p>第4回 幼児理解とカウンセリングマインド 役割演技（ロールプレイング）を通して、子どもの気持ちを理解し、保育者としての対応を学ぶ。</p> <p>第5回 幼児の発達の特性 3歳未満児と3歳以上児の発達の特性を理解する。</p> <p>第6回 保育者の資質能力 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなどの、常に学び続ける姿勢について学ぶ。</p> <p>第7回 社会性の学び 社会人としての基本（挨拶など）が身につけているか、そしてなぜ必要か理解する。</p> <p>第8回 支援の必要な子への対応</p> <p>第9回 幼児理解に基づいた学級経営 幼児期の発達の特性をふまえて、学級経営について理解する</p> <p>第10回 現地調査（フィールドワーク）・他 自己の課題とする特定の教育テーマで学校現場に向かい調査活動や情報収集を行い資料を作成する。また、自己の特定の教育テーマで資料を作成する。</p> <p>第11回 模擬保育・場面指導・他 模擬保育・場面指導の指導案を作成する。</p> <p>第12回 事例研究・他 特定の教育テーマにマ関する研究発表を行い、グループで討議や意見交換を行う。</p> <p>第13回 模擬保育・場面指導・他 模擬保育・場面指導等を行い、グループで討議や意見交換を行う。</p> <p>第14回 現地調査（フィールドワーク）の事例研究 特定の教育テーマにマ関する研究発表を行い、グループで討議や意見交換を行う。</p> <p>第15回 保育者の資質能力とまとめ（使命感・責任感・教育的愛情） 履修カルテをもとに教員と面談を行う。保育者としての資質能力等について振り返りまとめる。</p>
授業の概要	これまでの講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質能力を形成することを目的とする。 保育者として必要な①使命感・責任感・教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児理解や学級経営、④保育内容の指導力などを、演習、ロールプレイ等を通して、具体的に学んでいく。
予習	自己の知識・技能を振り返り、自己課題を認識すること。 実習を振り返り、自己の課題を認識する。
復習	授業内容を再確認し、理解に努めること。
テキスト	授業内容に応じて資料を配布 毎回：文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーバル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーバル館 大城：青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林
参考書	適宜に提供
評価方法・評価基準	各教員評価（10点×4人 40点） 模擬保育/場面指導・事例研究・教育研究（現地調査）などの資料作成および発表（20点）自己評価表（20点） 資料作成と発表の振り返りレポート（10点） 到達目標について（10点）

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	幼稚園実習開始前に、実習を終えて自己の課題が認識できるように事前シートを配布する。10月の講義開始前に自己の課題を明確化し、必要な知識や技能を補えるように受講すること。
オフィスアワー	赤嶺：毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室 大城：毎週月曜日（3限目）大城研究室 糸洲：毎週木曜日（2限目）糸洲研究室 照屋：毎週月曜日（3限目）照屋研究室
課題に対するフィードバック方法	赤嶺：課題は、授業内に返却する。 大城：課題は、評価後に各自のメールボックスへ返却する。 糸洲：課題は、評価後に各自のメールボックスへ返却する。 照屋：提出された課題は、講義内にて返却する。

講義科目名称：教育原理

授業コード：

英文科目名称：Principles of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
糸洲 理子			
講義			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育の意義・目的や制度、実践に関する基礎理論について理解する。また、児童福祉との関わりや生涯学習社会の現状と課題についても理解し、教育に対する使命感や倫理観を育む。</p> <p>【到達目標】 教育の理念や意義、目的、制度などの基本概念について学び、それらが教育の歴史や思想をとおして、どのように現われてきたかについて理解することができる。また、教育及び学校教育がどのように捉えられ、変遷してきたかについて理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、「教育」とは何か？ 社会の中で営まれている「教育」とは何か、自ら受けてきた学校教育をとおして改めて考える。</p> <p>第2回 教育の意義・目的 社会の中で営まれている「教育」と何か、その意義と目的について学ぶ。また、子どもの発達の特徴をふまえた教育の在り方、特に児童福祉と教育の関係について理解する。</p> <p>第3回 子どもの教育の今日的課題 子どもが育つ上で必要な基本的信頼関係をふまえた教育の在り方について理解する。また、子どもの基本的な生活習慣が教育にどのような影響を及ぼすかについて学ぶ。</p> <p>第4回 家庭教育の機能と課題 子どもが一番最初に受ける家庭教育とは何か、家庭教育を支える法制度もふまえて理解する。また、家庭教育の現状と課題についても理解する。</p> <p>第5回 学校教育の機能 社会の中で営まれている「学校教育」とは何か、自らが受けてきた学校教育もふまえて理解する。また、「学校教育」が学習者個人や社会にとって、どのような意味があるかについても考える。</p> <p>第6回 学校教育の法制度 「学校教育」に必要な法制度について理解する。また、教育に関連する法制度についても理解する。</p> <p>第7回 教育制度の運営 「学校教育」を支える教育制度とその運営について理解する。</p> <p>第8回 保育・幼児教育の現状と課題 就学前の乳幼児を取り巻く現状を把握し、保育・幼児教育の課題について理解する。</p> <p>第9回 教育課程の捉え方と類型 教育を営む際に必要な「教育課程」について、「教育課程」の意義と類型を理解する。</p> <p>第10回 諸外国の教育の歴史及び思想と子ども観の変遷 諸外国で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。また、社会の中で子どもをどのように捉えてきたか、子ども観の変遷についても理解する。</p> <p>第11回 日本の教育の歴史及び思想と子ども観の変遷 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。また、社会の中で子どもをどのように捉えてきたか、子ども観の変遷についても理解する。</p> <p>第12回 学校の現状と課題 現在の子どもの教育、特に「学校」を取り巻く現状と課題について理解する。</p> <p>第13回 「幼稚園教育要領」に基づく教育 「幼稚園教育要領」に基づいた幼児期の教育は、どのように行われるかについて理解する。</p> <p>第14回 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づく教育・保育 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に基づいた就学前の教育・保育は、どのように行われるかについて理解する。</p> <p>第15回 社会教育と生涯学習 学校教育を終えた後、個人は社会の中でどのように教育されるか、社会教育と生涯学習の視点から理解する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	教育が社会の中でどのように誕生して営まれてきたのか、教育の歴史や思想の変遷をとおして、教育の意義や目的、制度など実践に必要な基礎理論について理解する。また、教育法規や教育制度についても理解する。
予習	シラバスを確認し、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。わからない用語は調べておくこと。各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	授業で学んだ箇所の要点を整理し、説明できるようにすること。各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	北野幸子編著 2011 『シードブック 子どもの教育原理』 建帛社 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館

	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
参考書	内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 ミネルヴァ書房編集部 [編] 2018年 『保育小六法2018 [平成30年版]』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法・評価基準	試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。  【DP 1~4との関連】 ○ 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 提出物は期限厳守。レポートについては初回講義時に説明予定。 新聞やニュースを閲覧して、子どもや教育を取り巻く時事問題に関心を持つこと。
オフィスアワー	西研3-8 糸洲研究室 毎週**曜日 **限目 ※授業初回に掲示する。
課題に対するフィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

講義科目名称：発達心理学

授業コード：

英文科目名称：Developmental Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
大城 りえ			

授業のテーマ及び到達目標	1. 子どもの発達に関わる心理学の基礎的知識を獲得し、発達の過程および特徴を理解することができる。 2. 子どもの学びの過程や特性について基礎的知識を獲得する。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、発達心理学を学ぶ意義 発達心理学を学ぶ意義を理解する。</p> <p>第2回 発達段階・発達課題 発達段階と発達課題について理解する。</p> <p>第3回 発達理論・発達を規定する要因 心身の発達に影響する外的・内定要因の相互作用と発達に関する諸理論を学ぶ。</p> <p>第4回 胎児期の発達 胎児の発達を理解する。</p> <p>第5回 新生児期の発達 新生児の発達を理解する。</p> <p>第6回 乳幼児期の感情と自我の発達 乳幼児期の感情と自我の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第7回 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第8回 乳幼児期の知覚と認知の発達 乳幼児期の知覚と認知の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第9回 乳幼児期のことばの発達 乳幼児期のことばの発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第10回 乳幼児期の社会性の発達 乳幼児期の社会性の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第11回 乳幼児期の基本的信頼感の獲得 乳幼児期の基本的信頼感の獲得を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。</p> <p>第12回 乳幼児期の学びに関わる理論 学びに関する理論を学ぶ。</p> <p>第13回 乳幼児期の学びの過程と特性 乳幼児期の学びの過程と特性について理解する。</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育 乳幼児期の学びを支える保育について理解する。</p> <p>第15回 支援を要する子どもたちの発達理解 支援を要する子どもたちの発達を理解する。</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	乳幼児期の発達的特徴を学び、子どもへの理解を深める。さらに、支援を要する子どもたちの発達を学ぶ。
予習	テキストの該当箇所を事前に読む。 各回、約2時間の事前学習を要する。
復習	テキストを読み、講義内容をより理解するように努める。 各回、約2時間の事後学習を要する。
テキスト	新保育士養成講座編纂委員会（編） 2015年 『改訂2版 新保育士養成講座 第6巻 保育の心理学』 全国社会福祉協議会 その他担当者が準備します。
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	定期試験50%、授業内レポート（毎時間提出）35%、受講態度15%  【DP 1~4との関連】 .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。

	<p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	予習・復習をしっかりと行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中でも積極的に質問を行うこと。
オフィスアワー	毎週水曜日 3限目 研究室
課題に対するフィードバック方法	授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。

講義科目名称：保育課程総論

授業コード：

英文科目名称：Curriculum for Child Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目
担当教員			
赤嶺 優子			

授業のテーマ及び到達目標	<p><b>【目標及びテーマ】</b></p> <p>(1) 幼児教育施設において教育課程や保育の全体的計画が有する役割、機能、意義を理解する。</p> <p>(2) 教育課程領域、年齢を踏まえたカリキュラムを把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p> <p>(3) 領域、年齢を踏まえたカリキュラムを把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・カリキュラムの基礎理論と関連法規 カリキュラムの根拠規定、学校教育法、教育基本法において教育が行われることや児童福祉法に基づいて保育が行われること、また、カリキュラム（保育の全体的な計画）が作成されることへの理解</p> <p>第2回 幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼児教育における基本と我が国の幼児教育のガイドライン（幼稚園教育要領と保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）の意義と施行における告示</p> <p>第3回 幼稚園教育要領と教育課程、指導計画（カリキュラムマネジメント） 幼稚園教育要領が目指すものと幼稚園教育における教育課程の基本的な考え方、基本方針、カリキュラムマネジメントの推進</p> <p>第4回 保育所保育指針と保育の全体的な計画 保育所保育における基本的原則（保育所の役割、目標、方法、環境、社会的責任）と保育の全体的な計画の基本的な考え方と基本方針</p> <p>第5回 教育課程と指導計画 幼稚園の教育目標と教育課程の役割と指導計画の考え方と作成上の留意事項および短期の指導計画作成</p> <p>第6回 教育課程の編成 学校教育法、教育基本法の関係法規と教育課程の編成上の基本的事項および編成上の留意事項</p> <p>第7回 教育課程と保育の全体的計画における保育の計画と評価の意義 幼児理解に基づいた評価の必要性和計画、実践、振り返りと評価、再実践の意義</p> <p>第8回 保育所保育指針と保育の全体的な計画と指導計画（カリキュラムマネジメント） 児童福祉法、保育所保育指針から捉える、保育の全体的計画と乳幼児理解に基づいた評価の必要性和保育の計画及び評価</p> <p>第9回 保育の全体的な計画の編成 保育所保育指針を基本として編成し、その編成における留意事項</p> <p>第10回 指導計画（短期）の作成の実際と作成上の留意点 短期の指導計画は、長期の指導計画に基づいていることへの理解と作成上の留意事項</p> <p>第11回 指導計画（長期的）の作成の実際と作成上の留意点 子どもの生活や発達を見通した全体的な計画であることへの理解と作成上の留意事項</p> <p>第12回 保育の省察及び記録の意義 保育を振り返り自己の保育を見つめ直すことへの必要性和記録をすることの意義</p> <p>第13回 幼稚園教諭・保育士及び幼児教育施設における自己評価 保育における評価の在り方と評価の意義と種類と方法</p> <p>第14回 カリキュラム評価の基本 カリキュラム評価の基本と意義</p> <p>第15回 生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録 小学校以降の学習の基盤の育成につながる稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児教育施設において教育課程や保育の全体的計画が有する役割・機能・意義を理解する。また、教育課程の基本原理解及び実践に即した教育課程や保育の全体的計画の方法を理解する。さらに、領域、年齢を踏まえたカリキュラムを把握し、教育課程や保育の全体的な計画をマネジメントすることの意義を理解する。</p>
予習	<p>対象年齢、発達段階を理解をしておくこと。</p>
復習	<p>指導の計画と評価について、教育課程や保育内容等を踏まえ、理論と実践の関係を深めること。</p>
テキスト	<p>石川 昭義 松川恵子編集 2015年『保育内容総論』中央法規出版株式会社</p>
参考書	<p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館</p>

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>試験80%・課題20%等で総合的に評価する。</p> <p><b>【D P 1~4との関連】</b></p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>日案作成においては、様式の項目内容を理解しておくこと。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日（12:00～13:00）研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>課題においては、提出を求め、必要に応じて個別に対応する。 課題は、評価して授業内に返却する。</p>

講義科目名称：保育指導法ゼミ

授業コード：

英文科目名称：Introduction to teaching methods in ECCE

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2単位(0-2)	選択科目
担当教員			
赤嶺優子・糸洲理子・松田恵子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【到達目標及びテーマ】</p> <p>(1) 乳幼児教育の幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針解説書を踏まえ、保育の基本や指導の考え方が理解できるようになる。</p> <p>(2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、教育・保育の全体構造の理解 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方について説明 教育基本法や学校教育法において、教育がおこなわれることや児童福祉法に基づいて保育や行われることを理解し、教育・保育の全体的構造の理解</p> <p>第2回 子どもの生活と保育内容 子どもの生活と遊びの理解、養護と教育、5領域</p> <p>第3回 保育内容の歴史的変遷 6領域（健康、社会、自然、言語、音楽リズム、絵画製作）から5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）と5領域の充実した内容への変遷。保育の目標、領域と保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）についての理解</p> <p>第4回 3歳未満児の発達と子ども理解 3歳未満児の生活と遊びから見える発達と子ども理解</p> <p>第5回 3歳以上児の発達と子ども理解 3歳以上の生活と遊びから見える発達と子ども理解</p> <p>第6回 幼児教育における環境構成をとおした保育（視聴覚教材の活用） 幼児教育における環境をとおして行う保育の基本とは、また、環境構成を通して行う保育について視聴覚教材を活用して把握</p> <p>第7回 幼児教育における5領域のねらい及び内容のつながり：遊びをとおしての総合的な指導 幼児教育における生活や遊びと5領域のねらいや内容とのつながりを見出し、その生活や遊びがどのようにつながっているかを知り、遊びをとおしての総合的な指導についての理解</p> <p>第8回 支援を要する子どもの理解とクラス運営 支援を要する子どもについて見識を深め、個々の状態に応じて指導内容や指導方法の工夫することの必要性やクラス運営の在り方について検討</p> <p>第9回 活動を分析し幼児教育における見方・考え方を話し合う：幼児期の教育と児童期の教育 幼児期と児童期への接続において、幼児期にふさわしい生活や遊びをとおした活動が児童期以降の生活や学習の基盤育成へつながることについて活動を分析しての話し合い</p> <p>第10回 幼児教育における教育課程、保育の全体的な計画・指導計画について 幼児教育の根拠法令（教育基本法、学校教育法、児童福祉法）および告示の意味を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて教育課程、保育の全体的な計画・指導計画の作成することの理解</p> <p>第11回 保育内容と計画のつながり（部分案作成） 部分案作成の作成方法について理解し、グループで乳幼児の発達と発達段階を把握し、生活や遊びから保育内容とのつながりを意識した部分案作成の検討</p> <p>第12回 模擬保育案の作成 グループで乳幼児の発達と発達段階を把握し、生活や遊びから保育内容とのつながりを意識した模擬保育案（部分案）の作成</p> <p>第13回 模擬保育 グループごとに模擬保育の実施</p> <p>第14回 模擬保育の振り返りと省察 個々人、模擬保育の実施した内容を部分案作成し、模擬保育を振り返り省察</p> <p>第15回 各領域の特性に応じた保育実践の動向と構想 領域の特性について理解し、領域の充実した内容を把握し保育実践の動向を構想</p>
授業の概要	<p>幼児教育の基本を踏まえ、保育の基本や指導の考え方を理解する。また、幼児教育は、環境を通して総合的に指導をすることを理解し、環境を構成し実践するために必要な知識を身に付ける。特に、具体的な幼児の姿と関連づけながら遊びの中でどのような経験をしているかについて学び、5領域のねらい及び内容とのつながりを確認し、遊びを通して育つことを理解する。</p>
予習	<p>保育の目標、領域と保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）について理解を深め、模擬保育案（部分案）作成および模擬保育を課す。</p>
復習	<p>保育の目標・子どもの発達・保育内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を関連付けて保育の全体的構造の理解を深める。</p>
テキスト	<p>入江礼子・榎沢良彦 編著、2018年『シードブック 改訂保育内容総論』建帛社</p>
参考書	<p>文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーバル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーバル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーバル館</p>

	厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	<p>模擬保育案（部分案）作成（グループ・個人）（20％） 模擬保育（20％） 課題（①～⑥）（60％）</p> <p>【D P 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>模擬保育案（部分案）作成（グループ・個人）で行う。</p> <p>課題（①保育の目標について②養護と教育について③環境をとおして行う教育について：保育の基本）④教育課程について⑤保育内容について⑥遊びをとおした総合的な指導について）</p>
オフィスアワー	<p>赤嶺：毎週月曜日（12:00～13:00）赤嶺研究室</p> <p>糸洲：毎週木曜日 2限目 糸洲研究室</p> <p>松田：授業終了後に教室で質問を受付けます。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題や模擬保育案（部分案）等においては、講義内容の予習・復習を兼ねてその都度課す。</p> <p>課題や模擬保育案（部分案）等においては、評価後、授業時に返却する。</p> <p>模擬保育案（部分案）作成においては、提出を求め、必要に応じてグループおよび個人に対応する。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
島袋 桂			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <p>1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示された幼児教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を学ぶ。</p> <p>2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な活動場面を想定した指導方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1) 現代の子どもの健康課題と、その背景と要因について知り、保育者が必要な働きかけについて理解する。</p> <p>2) 子どもの健康に関わる生活習慣、運動遊び、安全教育、食育の指導方法について理解することを目標とする。</p> <p>3) 指導案のまとめ方について知り、保育場面を想定した指導案を作成出来るようになる。</p> <p>4) 模擬保育の実践とその評価を通して、自身の取り組みについて改善を続ける姿勢を持てるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、子どもの「健康」とは 一領域「健康」のねらい及び内容の理解— シラバスを確認しながら、講義の概要、講義の進め方、評価方法等についてのオリエンテーションを行う。その後、「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて学習する。</p> <p>第2回 子どもの健康の現状と課題 現代の子どもの健康課題について学び、その改善のための保育者に求められる内容や保育者の資質について学ぶ。</p> <p>第3回 子どもの心身の発達と特徴 子どもの心身の発達とその特徴について学び、子どもの健全な発達のために必要な保育者の働きかけについてグループワークも用いながら考えていく。</p> <p>第4回 子どもの基本的な生活習慣獲得過程（指導案作成） 子どもの生活習慣が健康に及ぼす影響について知る。次に、基本的な生活習慣獲得のプロセスについて確認し、模擬保育保育に向けて指導案の作成を行う。</p> <p>第5回 基本的な生活習慣に関わる保育の実践（模擬保育実践と評価） 基本的な生活習慣の獲得について模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら基本的な生活習慣獲得の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>第6回 食育の推進 「幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における食育の内容について学ぶ。その後、事例も持ちながら食育の内容、指導方法について理解し、具体的な食育の実践について構想を練る。</p> <p>第7回 食育実践と体験（模擬保育実践と評価） 現在行われている幼児向けの食育の実践を、模擬保育を通して行う。その後、各グループで評価を行い、その内容を元に食育推進についてのまとめを行う。</p> <p>第8回 運動遊びの意義（情報機器の活用） 情報機器も用いながら、子どもの動作の特徴を観察し、なぜ子どもの発達に運動遊びが必要なのかについて理解する。その他、運動遊びの考え方、方法についても学習する。</p> <p>第9回 運動遊びの展開方法（指導案作成） 運動遊びの展開について、グループワークも用いながら学んでいく。その後、具体的な保育場面を想定しながら、運動遊びの指導案を作成する。</p> <p>第10回 運動遊びの指導実践（模擬保育実践と評価） 運動遊びについて指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら運動遊びの指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>第11回 子どもの病気や怪我、事故の予防と応急処置について 子どもが罹患する病気や、よくある怪我について知る。その他、事故の予防と応急処置の際の注意について学ぶ。</p> <p>第12回 子どもの安全教育と危険（指導案作成） 現場を想定した事故の対応等についてグループワークを用いて考える。その後、安全教育についての指導案作成を行う。</p> <p>第13回 安全教育の指導実践（模擬保育実践と評価） 安全教育について指導案を基に模擬保育を実践する。その後、各グループで評価を行い、その内容も踏まえながら安全教育の指導方法等についてまとめを行う。</p> <p>第14回 健康保育の実践と評価の視点 子どもの健康を守るために、乳幼児の内面や、背景を理解することの重要性について学ぶ。また、日々の保育実践について、自身による評価や周囲からのフィードバックを活用して、日々改善につとめる視点をもつことの必要性を理解する。</p> <p>第15回 保幼小のつながりと地域との連携について 保育所・幼稚園と小学校をつなぐことの意義とその具体的な内容について正しく理解し、グループワークを用いて、将来を想定した保育構想について考える。</p> <p>第16回 定期試験 定期試験を行う。</p>
授業の概要	1. 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取り扱いについて理解し、健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を学

	ぶ。 2. 乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育発達に対する理解を深め、適切な指導方法について学ぶ。 3. 現代の子どもの課題である「基本的な生活習慣」、「食育」、「運動遊び」について家庭や地域との連携のあり方について知る。
予習	テキストを事前によく読み、「子どもの健康」の知識を再確認しておくこと。
復習	授業の際に配布されたレジュメを読み、講義の内容をより理解し、応用できるように努める
テキスト	保育内容 健康【乳幼児教育・保育シリーズ】（2018） 著：吉田伊津美・砂上史子・松寄洋子. 光生館
参考書	文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法・評価基準	期末試験60% 授業態度20% 受講者の発表20%  <b>【D P 1～4との関連】</b> .. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。 ○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。 ○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 ○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義だけではなく、指導案作成、模擬保育の実践も行います。 グループの活動も取り入れながら、授業をすすめます。
オフィスアワー	(仮) 毎週**曜日 **限目 島袋研究室
課題に対するフィードバック方法	・課題、試験等は、評価して各自に返却します。

講義科目名称：人間関係指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Hu. Rel. of Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
赤嶺優子・平安名盛孝			

授業のテーマ及び到達目標	(1) 幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針解説書で示されている幼児教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」の特徴を知り目標、ねらい及び内容、内容の取扱いを理解する。 (2) 幼児期の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・現代社会と乳幼児の人間関係 講義概要説明、評価方法、授業の進め方について 昔の乳幼児の生育環境と現代社会の乳幼児の生育環境と人間関係</p> <p>第2回 領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて理解 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が示す領域「人間関係」の目標、ねらい及び内容、内容の取扱いについて</p> <p>第3回 乳児期における人間関係の発達 乳児期の発達と信頼関係から構築される人間関係の発達</p> <p>第4回 幼児期における人間関係の発達 幼児期の生活や発達をとおした人間関係の広がり</p> <p>第5回 乳幼児期の発達と自立心を育む援助 乳幼児期の発達と自分のことは自分でする自立心を育む援助</p> <p>第6回 友達との遊びを楽しむ中で多様な感情を経験し、自他の気持ちに気づく援助の在り方（葛藤体験） DVD視聴をとおしてのグループ討議や意見交換</p> <p>第7回 乳幼児期の自立心の育ち 自分のことは自分でする自立心の芽生えを育む関わり</p> <p>第8回 共同的な遊びの中で育ち合う人とのかかわり（模擬保育） 模擬保育から捉える領域「人間関係のねらいや内容、内容の取扱い」</p> <p>第9回 幼児期の協同性の育ち－目標を共有し協力してやり遂げようとする力の育ち 協同性をとおしてみえる共同に向かう幼児同士の関わりと育ち</p> <p>第10回 領域「人間関係の内容」：「友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付く」 決まりに関する幼児の葛藤と援助</p> <p>第11回 領域：「人間関係の内容」共通の遊具や用具を大切にし、みんなで使う」（視聴覚教材の活用） DVD視聴をとおして捉える個と集団の育ち</p> <p>第12回 共同的な遊びの中で育ち合う人との関わり－共同的な遊びの事例を考える（模擬保育） グループで共同的な遊びに関する事例内容を考え、模擬保育</p> <p>第13回 領域「人間関係の内容」：「身近な友達と関りを深めるとともに、異年齢の友達など、様々な友達と関わり、思いやりや親しみをもつ」 交流保育の中で育つ人との関わり</p> <p>第14回 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえた保幼小の接続 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校以降の生活や学習で生かされる力について</p> <p>第15回 領域「人間関係」をめぐる諸問題とまとめ 現代社会から見える、人間関係に関する諸門問題について話し合い、情報交換しまとめる</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業の概要	幼稚園教育要領解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている領域「人間関係」のねらい及び内容、内容の取扱いについて理解する。そのうえで、乳幼児の姿と保育実践を関連させて理解を深め、発達に必要な主体的・対話的で深い学びを実現するための実践方法を身に付ける。
予習	目標とねらい、内容、内容の取扱い等は、幼稚園教育要領や保育所保育指針等を用いて事前学習をすること。
復習	授業終了後の学びや課題を明確にし、授業計画内容の理解を深めること。
テキスト	清水陽子/門田理世/牧野桂一/松井尚子【編著】2017年『保育の理論と実践』ミネルヴァ書房
参考書	文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館
評価方法・評価基準	試験60%、課題40%で総合的に評価する。

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」の課題を課す。
オフィスアワー	赤嶺 : 毎週月曜日、(12:00~13:00) 研究室 平安名 : 授業終了後に質問を受け付けます。
課題に対するフィードバック方法	予習・復習（領域「人間関係のねらい、内容、内容の取扱い」）の課題を課す。 課題は、評価し授業内に返却します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前・後期	1年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
照屋 建太			
単独			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 身近な環境を利用し、乳幼児の発達や学びの過程を踏まえた場面を想定した指導方法を身につけることを目標とする。さらに、乳幼児期の発達や学びの過程を理解し、具体的な場面を想定した保育を構想する方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に示されている教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容の全体構造を理解することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、乳幼児の保育環境や生活環境を考える 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針における5領域の概要説明。そして、乳幼児の保育環境や生活環境の実態を考える。</p> <p>第2回 グループ学習①（環境観察、教材研究） 学生自ら環境を観察し、乳幼児にとって魅力的な環境についてグループで考え、発表する。</p> <p>第3回 領域「環境」の意義と概要、領域「環境」をより良く理解するために 5領域の中にある領域「環境」の意義を考える。そして、その環境について具体例を考え理解を深める。</p> <p>第4回 領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容についてしっかり把握する。</p> <p>第5回 好奇心・探究心のはぐくみ、物の性質や数量・文字の取り扱い 幼児にとって好奇心・探究心の出る環境を考える。また、身近な環境から数量や文字の取り扱い方法を把握する。</p> <p>第6回 子どもの発達と環境、基本的生活習慣の自立 子どもの発達環境を考える。また、近年の乳幼児の基本的生活習慣について実態を踏まえ把握する。</p> <p>第7回 自然環境を活用した実践事例（情報機器の活用） 自然環境を利用した保育実践を視聴し、自分の考えをまとめる。</p> <p>第8回 自然に親しむ ー生命の尊さ、自然とのかかわりと保育 自然に親しむことで、命の尊さについて学ぶ。また、自然とのかかわりから保育について考える。</p> <p>第9回 自然環境（ビオトープについて）を利用した保育実践（情報機器の活用） 自然環境を利用した保育実践（ビオトープ）の事例について実際に体験し、学ぶ。</p> <p>第10回 生活と関係する行事・文化、子どもを取り巻く情報機器（情報機器の活用） 生活と関係する行事や文化等を学ぶ。また、近年における保育の情報機器利用について事例を通して考える。</p> <p>第11回 指導計画と評価 ー領域「環境」の視点から（教材の活用） これまで学んだ保育環境の学びから、教材の活用方法を自ら考える。</p> <p>第12回 グループ学習②（身近な植物の特徴を知る、教材研究） 身近な植物の特徴や生育環境、保育での利用方法についてグループで学ぶ。</p> <p>第13回 0歳から2歳児の保育と環境、3歳から6歳児の保育と環境（模擬保育等の実践的内容） 保育環境について実践内容を考え、模擬保育を行う。</p> <p>第14回 保幼小との連携、特別な支援を必要とする子どもと領域「環境」 近年の保養小連携と特別な支援を要する子ども達の環境について学ぶ。</p> <p>第15回 現代社会に内包する環境の問題、領域「環境」の振り返り 現代の保育環境に関する問題を考え、領域「環境」のまとめを行う。</p>
授業の概要	本講義では、領域「環境」を中心にその意義・内容について理解する。また、周囲の様々な環境に関わり、環境構成する力を養う。物の性質や数量、文字の取り扱いについて学ぶ。さらに、乳幼児の発達を踏まえた上で、環境について意図的に考え、計画する方法を自ら考える。
予習	講義前に予告したテキストの章を熟読する。大切な部分については、各自ノートにまとめておくこと。
復習	講義内で出す復習問題を確認し、各科目との関連性を理解すること。
テキスト	大沢裕・野末晃秀 2018年『コンパクト版 保育内容シリーズ「環境」』一藝社 文部科学省 2017年『幼稚園教育要領』フレーベル館 文部科学省 2018年『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 その他、必要に応じてプリントは配付する。
参考書	沖縄生物教育研究会編 2012年『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版 その他、必要に応じて紹介する。

<p>評価方法・評価基準</p>	<p>講義のまとめ課題（60％）、レポート課題（20％）、受講態度（20％）</p> <p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>○ 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学期に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>課題の提出については、様式と期日を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。欠席した場合は、講義計画に関するテーマを自ら設定し、1200字（A4用紙）のレポートを提出すること。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>毎週月曜日 3限目 照屋研究室</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>提出された課題は、講義最終日に返却する。</p>

講義科目名称：言葉指導法

授業コード：

英文科目名称：Teach. Meth. of Children's Sp. Dev.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2年	1単位(0-2)	必修科目
担当教員			
山盛 淳子			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童文化財の特徴、役割について理解し意欲的に実践に向けて取り組む。</li> <li>・自ら感性を磨き言葉による表現力を身につける。</li> </ul> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豊かな言葉を育む保育者の役割について説明できる。</li> <li>・言葉と保育の展開（発達及び幼児理解）について事例を通して指摘できるようになる。</li> </ul>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明・授業内容・方法・実技・課題等の共通理解 講義の概要説明、評価の方法、授業の進め方などについてのオリエンテーション実施後、三法令の改定のポイントについて学ぶ。</p> <p>第2回 保育の基本と領域 「言葉」 保育指針・幼稚園教育要領のねらいと内容について学ぶ。</p> <p>第3回 幼児理解と言葉 生活の中の言葉について学ぶ。</p> <p>第4回 言葉を豊かにする児童文化財 乳幼児の言葉と発達の関わりについて学ぶ。</p> <p>第5回 ①保育者の言葉と表現と表情 絵本の成り立ちと役割・取扱い方について学ぶ。</p> <p>第6回 ②言葉の発達と絵本 絵本カードとの関わりについて学ぶ。</p> <p>第7回 ③保育者の読み取りと感性 課題図書を読み、感想文を作成・提出する。</p> <p>第8回 紙芝居の成り立ちと基礎的理解 紙芝居の特徴について学ぶ。</p> <p>第9回 紙芝居の取り扱いと実演（グループ）発表 グループに分かれて、紙芝居を実演する。</p> <p>第10回 発達の中の言葉 ① 聞くこと、話すこと、思いの伝え合いについて学ぶ。</p> <p>第11回 発達の中の言葉 ② 思考すること、想像することについて学ぶ。</p> <p>第12回 ①音声言語から文字言語へ 生活の中の文字について学ぶ。</p> <p>第13回 ②保育と文字の関わり 標識や文字・記号などへの興味関心を育てる環境づくりについて学ぶ。</p> <p>第14回 仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」 ① 素材を検討し、シナリオを作る。</p> <p>第15回 仲間を育てる「ごっこ、劇遊び」 ② 前回作成した「ごっこ、劇遊び」について、グループ毎に発表する。</p> <p>第16回 まとめ・定期試験</p>
授業の概要	<p>幼児の言葉で学んだ乳幼児の言葉の発達、保育指所保育指針や幼稚園教育要領の「言葉」を踏襲し、幼児の言葉を豊かにする指導の方法や実技等を通して学ぶ。乳幼児理解と言葉は不可分であり、保育の実技において「生活の中の言葉と幼児理解」「具体的な場面や状況に応じた援助の在り方」「幼児の言葉を豊かにする児童文化財」の理解と活用、保育者と言葉の重要性を知り日本語の言葉の美しさや正しさ豊かさを学んでいく。</p>
予習	<p>保育所保育指針・幼稚園教育要領における「言葉」の領域について予備知識をもち授業に臨む。</p>
復習	<p>授業で学んだ箇所を振り返り、幼児の発達と言葉・保育者の関わりを理解する。</p>
テキスト	<p>岡田 明 『新訂』 子どもと「言葉」 萌文書林</p>
参考書	<p>厚生内閣府 2017年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府 2018年『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 厚生労働省 2017年『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年『保育所保育指針解説』 フレーベル館 その他講義で提示</p>
評価方法・評価基準	<p>課題提出（絵本カード30%・感想文5%）、企画と発表（グループ）5%、定期試験60%、 総合評価</p>

	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>.. 1 他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための知識と技能を身につける。</p> <p>○ 2 幅広い教養教育を基礎に、思考力、判断力および表現力を身につける。</p> <p>.. 3 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>○ 4 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>学生としての本分と保育者としての自覚に基づき、自身が豊かな言葉で話せるようにする。 絵本カード作製と提出（必須） グループ活動への参加と発表の取り組み（評価対象になる）</p>
オフィスアワー	<p>（仮）毎週**曜日 **限目 山盛研究室</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題やプリントは、評価後に返却します。</p>